教職の魅力創造プロジェクトに寄せて

山岸　和（山形大学地域教育文化学部児童教育コース４年）

１．３つの事業で紡ぐ教職の魅力

教職の魅力創造プロジェクトでは，主に３つの事業が展開されています。大変有難いことに，今年度，私は全ての事業に関わらせていただくことができました。

「小学校教員体験セミナー」は，高校生が実際に小学校で教員を体験するものですが，高校生だけでなく教員を目指す大学生にとっても豊かな学びの機会になります。高校生をサポートする役割を大学生が担うのですが，私は，最初はどうしても教室後方に留まってしまう高校生に「もっと入っていっていいんだよ！」「前の方から見ると児童の表情がもっと見えるかも！」と伝えていきました。常に客観的に教室を見なければサポートはなかなか務まらないように感じます。授業者視点だけでもなく，参観者視点だけでもなく，その両方の視点で俯瞰して教室を見ることで,「児童が何をして，何を考えているのか」をより深く見つめられるようになりました。

「聞き書きプロジェクト」では，私自身が憧れる中学校時代の恩師にインタビューさせていただきました。中学校卒業以来，７年ぶりに再会できたことが，まずは何よりも嬉しかったです。海外での経験を豊富に持ち，幼い頃から異文化に出会ってきた恩師は，嬉々として，海外でのエピソードを語っていました。前向きな表現である英語に魅了され，ご自身もポジティブシンキングを大事にされていることが語りからも伝わってきます。もちろん，様々な生徒との出会いが学校現場では待っていて，そこでの葛藤や悩みもそれぞれあります。それでも，誰一人として同じ子どもがいないように，教師自身も，それぞれのバックグラウンドと信念，強みを持っているのだと感じました。恩師の先生が「教え子の頑張っている姿が私にとっての幸せであり，明日への活力です」とインタビューの後にお伝えくださり，教師と生徒，教師と教え子，同僚へと形を変えながら「つながり」を深めていくこともまた，教職の魅力の一つなのかもしれないと私は感じています。

「学びのフォーラム」では，一つのテキストをもとに「学ぶとはどういうことか」を考え,「学び」の根源に迫っていく稀有な機会です。様々な立場の方々が集まり，各々の経験を交えながらテキストを噛み砕こうとするのですが,何度参加しても,立場が変わっても，そう簡単には答えが出ません。毎回立ち止まる箇所が同じということもあれば，分かったつもりになっていたところで実はよく分かってなかったなど，議論はずっとぐるぐると渦巻いている感覚です。そして，何度参加しても同じ議論にならないことが面白いのです。共通のトピックに向かってグループ内でわからなさを共有することそのものに，教職を超えた面白さや何にも代えがたい魅力があるように思います。

２．プラットフォーム会議に参加して

本会議には「会議」という言葉からは想像もつかないような温かい空気感があります。多種多様な構成メンバーがこの会議を「共有の場」として捉え，対等な立場で語っているからでしょう。現状を真摯に受け止め，表面化しづらい教職の魅力をどう映し出していくかを考える時間が続いていくことを願っています。委員として参加させていただいた私も，ちっぽけでも素敵な教職の魅力を沢山経験し，忘れずに自分の中に留めておきたいです。